



THE DAILY ENGINEERING & CONSTRUCTION NEWS

2018年(平成30年)

毎日 建設土木新新聞 3月13日 火曜日

第19384号

発行所 日刊建設工業新聞社
〒105-0021 東京都港区東新橋2-2-10
電話03(3433)7151 http://www.deci.co.jp/
◎日刊建設工業新聞社 2018
編集 電話03-9433-7181 mail-ed@deci.co.jp
印刷 電話03-9433-7182 mail-sa@deci.co.jp
販売 電話03-3433-7154 ei-eye@deci.co.jp

幕府が行った治水政策の基本は、上下流や左右岸に
関係する藩で反対する所が
ある限り、治水・普請を許可
しないといつもものだった。
また反対する藩を説得し了解
を取り付けた場合でも、
必要な普請費用は申し出た
者たちで工面する自普請な
どが条件付けられた。抜本
的な治水と言えぬものはほ
んど何もできなかったの
である。

明治維新150年と 治水の歴史

竹林 征三

② 新田開発は治水の障害

木曾川の宝曆治水も 3年は免税されるなど、奨励策が講じられた。そう
幕府が直接実施した利根川東遷のような治水もある。新田開発のために広い沼澤
ではないかという声が聞こえてくる。だが利根川東遷低平地を流れ、氾濫の繰り返
や荒川西遷の目的は洪水被害から集落や田畑を守る治水を両サイドの山際のほんの
水ではない。新田開発が目 少し高いところへ付け替え
的であった。日本の戦国時 代より各大名は国力を高め
るために競うように米の増産、農地開発に取り組んだ。
徳川幕府や各藩も新田開発を奨励し、役人や農民・町
民たちの主導で湖沼や潟の浅瀬を埋め立て、干拓が行
われた。

その結果、河川は毎年、洪水期になると各所で破壊・氾濫が繰り返され、深刻な被害が生じた。農民はど
こに居を構えたかと言え ば、自然堤防や山際のような
なや高い地に構えた。毎年浸水する田畑には上流から
肥沃(ひよく)な土が運ばれてくる。これを天から
の恵みととらえた。毎年
の破壊に対しては、

被害を受けた所の藩に農民総出で修復させた。現在の災害緊急復旧事業的なもの
と考えられる。広域な大災害が起こり、藩単位ではど
うしようもない場合は、例えば利根川と荒川で174
2(寛保2)年に発生した大洪水などでは諸国の大名
にお手伝い普請で復旧させ
た。幕府の出費は考えてい
身給付されることや、歟下
一方で、上流の原野や荒

新田開発すれば開発者に新田年貢の何分の一かが終
請に幕府は力を尽くした。 めに河川を付け替えること
などはあっても、それは治水が目的ではなかった。幕
府は治水に関する陳情は基本的に待ちの姿勢であり、その付けが明治になっ
て一挙に噴出する。また江戸時代の新田開発で生まれ
た広大な田畑がこれまでは
広い遊水機能がある氾濫原
であったが、今度は反対に
洪水から守らなくてはなら
ない要洪水防除地帯になっ
た。新田開発したところは
その後、農民の努力により
ほとんど美田に生まれ変わ
っていた。それとともに
洪水防御の要求が大きくな
っていく。

〔参考文献〕『物語日本の治水史』鹿島出版会
〔富士常葉大学名誉教授、風土工学デザイン研究所理事長〕

週一回掲載